



芝小だより

6月号

令和5年5月31日
発行者 港区立芝小学校
〒105-0014
港区芝2-21-3
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)
[FAX:03-3456-3071](tel:03-3456-3071)

「すべての子供が輝く学びの場を目指して」

副校長 根本祐介

先日、あるテレビ番組で、15年前に最新家電製品の紹介をしている様子を振り返っていました。今では当たり前前の技術(スマートフォンの画面を指で操作できることや、スピーカーがワイヤレスであること等)に出演者が大興奮していました。私は、たった15年でこれほどテクノロジーが進歩したというスピード感に、改めて驚きました。一方、5月5日のこどもの日恒例の出生数調査においては、7年連続で最低記録を更新して、15歳未満の人口は42年連続で減り続けているとの発表がありました。このペースは従来の予想より10年程早いペースだということで、2100年には日本の人口は6000万人を下回ると予測されています。子供たちが社会の中心となるころには、いったいどんな世界になっているのでしょうか。

予測されている今後の社会の形の1例として、「多国籍、多民族的で構成される多様性あふれる社会」が挙げられます。そのような社会を担っていくために必要な力を、子供たちが身に付けていく学びの環境を整えることが学校教育の課題の1つとなります。学校には、様々な意見や価値観をもつ子供たちが集まっています。従って、それぞれの子供の思いがすれ違ってトラブルが発生します。互いに自分の考えを受け入れて欲しくて、決着に時間がかかることが多いのですが、大切なことは、自分の意見を理解して欲しかったら、同じくらい相手の主張も認めて、受け入れるという態度ではないでしょうか。世の中の問題には、唯一の正解しかないことの方が稀であり、互いに寄り添って納得する解決方法を見つけることの方が多いです。このような合意形成や折り合いをつける力を身に付ける学び方が、主体的、対話的で協働的な学びだと考えます。

知識や技能を蓄積することだけで満足せずに、自分たちの努力で手に入れたアイテムを最大限活用し、自分とは異なる特長をもつ仲間との交流を楽しみ、協力して問題を解決して達成感を得る。そのような教育活動を展開するには、教職員だけではなく、保護者・地域住民の皆様が同じゴールを目指すということが重要になります。芝小学校の子供たち一人一人が個性を発揮して充実した学びができるよう尽力いたしますので、これからもお力添えをお願いいたします。

6月「友達と仲良くしよう」

「学校生活アンケート」

港区では、いじめ防止の取組の一環として、児童への学校生活アンケートを実施しています。

本校でも、月に一回アンケートを実施し、4月・5月のアンケートでは、多くの児童が「最近、学校に来るのが楽しい」に○を付け、学校生活を楽しんでいる様子が見えられました。

児童の心配や悩みを早期に見つけるよう、心配なことや困ったことがあった児童には、担任が丁寧に聞き取りをして、問題の解決に努めています。

児童が、安心して充実した学校生活を送れるように、今後も教職員全員で見守っていきます。御家庭からも、気になることがありましたら、ぜひお知らせください。

(生活指導部 松尾 真澄)

学びの部屋

～算数少数数の教室から～

3年生以上の学年では習熟度別コースに分かれて算数の学習をしています。問題をかみ砕いて提示し、ヒントを出しながらも自力解決・検討に向かうコース、初めから自力解決し、皆の前で説明をしっかりとるコース等々、集まったメンバーにより、担当教員の授業の進め方に違いはありますが、どのコースの児童も同等のねらいの達成に向けて学習に取り組んでいます。特に、算数の問題解決に必要な読解力と表現力は、どこのコースの児童であってもしっかりと身に付けられるようにしたいと思っています。自らの力で問題を読み解き、解決に向けて式や図で表現する学習を今後も続けていきます。

答えは一つでも途中経路は様々、多様な方法を考え出し、発表する姿を見るのは楽しいです。

(算数少数数 須藤 久美子)